

山形市 山寺中生と大分の中学生が 俳句交流 山寺を訪れ作句



2026/08/06 朝刊 地域

俳句の世界を広げようと、山形市の山寺中（武田裕子校長）と百人一首が縁で交流する大分県佐伯市の本匠中（高野徹校長）の2、3年生5人が7月30日、山形市山寺地区を訪れた。

5人は佐伯市の「郷土本匠広報大使」の代表として来県した。両校の生徒は俳聖松尾芭蕉が歩いたという立石寺の石段を一緒に上り、交流を深めた。山寺芭蕉記念館では、俳人武田菜美さん（山形市）が講師を務め、芭蕉は推敲（すいこう）を重ねて句を完成させたと説明。「俳句は他の物や季語に託して心の動きを表現する。心の動きにぴったりの言葉を見つけてみよう」と話した。

両校の生徒はこの日の体験から感じたことなどを俳句に詠んだ。本匠中2年の田中まいさん（13）は、五大堂で体を休めた際に風が吹き抜け、とても気持ちよかったといい、「風涼し 遠くを眺め 五大堂」と詠んだ。本匠中の生徒たちは地元に戻り、山寺の魅力とともに俳句の面白さを広める。

（菅原亜希子）

===== 写真説明 =====

詠んだ俳句を発表する本匠中生（左）＝山形市・山寺芭蕉記念館